

## 岡垣の教育 岡垣中学校⑤

—創立から10周年ころまで—

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

創立5年次（昭和60年度）は、生徒数602人、15学級、教員27人でスタートした。校長は2代目の太田満氏から3代目の下田寅雄氏が就任した。

この年度、学校の広報「やはぎ」（生徒会新聞）が名称と形式を変更し、岡垣東中学校校友会誌「やはぎ」（冊子）が翌年の3月に創刊された。

その「やはぎ」1号に、校長の下田氏が「体得」と題して、一文を寄せている。要約したものを紹介する。

「体」という字は、イは人を表し、木は木の幹で本体をいう。体は人の幹、本体です。従って、体得とは自分の体で実際に経験し、幹にしっかりと刻み込むことです。一度刻み込まれたものは、容易に忘れることはないのです。その積み重ねが心を大きく、丈夫に育て、自信となつてきます。

先年、剣道少年団の指揮者7名を引率して、久住登山をしました。久住高原の宿舎に宿泊したが、

翌日は雨でした。雨対策の説明をしました。着替えの下着と新聞紙をビニール袋に包み、雨合羽を着るようにして、登山を開始しました。合羽を着ていたので汗をかき、頂上付近の避難小屋に着いたときは、寒さに震え上がりました。だが、下着を着替えたり、シャツとシャツの間に新聞紙を入れたり、新聞紙を燃やしたりして、暖をとりました。寒さ対策を体得したのです。

生きる知恵を体得したのです。知識は大切だが、経験し、体得することが、人として生きるための知恵となります。その知識で新しいものを創造し、新しい道を開拓できるのです」と述べている。

その年度の5月末のPTA総会で、2代目会長の岩本松樹氏が退任し、3代目会長の阪本清次氏が選出された。

阪本氏は「やはぎ」1号に「スポーツマン」と題して、一文を寄せている。要約したものを紹介する。「私は18歳の時からテニスを始

め、今年で30年になります。このテニスによって、人生観を教えられたと信じています。

『この一球は絶対無二の一球なり、されば、心身を挙げて、一打すべし、この一球一打に技を磨き、体力を鍛え、精神力を

養うべきなり、この一打に今の自己を発揮すべし、これを※庭球する心という『これは、私がモットーとしている詩です。そのために『テニキチ』といわれるくらい練習しました。

練習の間には、週2回、坐禅を組みました。これで、自分に厳しく、相手に寛大になれる精神力が養われたと思います。

先輩の方々から技術だけではだ



めで『挨拶や言葉使いが正しくでき、謙虚な態度で、誰にも接することが大事だ』と教えられました。

スポーツをすることは、人間を磨くことで、スポーツマンシップを発揮することが、スポーツの尊い目的です。

生徒諸君、頭を鍛え、心を養い、体を鍛え、部活動で立派なスポーツマンになれるよう、頑張ってください」と述べている。

※庭球：テニスのこと